

《注》

- ・下記製品は、“化学物質等の危険性又は有害性等の表示又は通知等の促進に関する指針”における対象製品ではありませんので、安全データシート(SDS)の類似書式で報告します。
- ・下記情報は、現時点で入手できる資料・情報・データに基づいて作成しておりますが、新しい知見により改訂されることがあります。
- ・注意事項は通常取り扱いを対象としたものですので、特殊な取り扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。
- ・ここに掲載した数値は参考値であって、保証値ではありません。

整理番号：HP

管理番号：AP-48-12

制定 2002年10月28日
改訂 2025年01月06日

1. 製品及び会社情報

会社名 : タキロンシーアイ株式会社 高機能材事業部
住 所 : 〒108-0073 東京都港区三田 3-5-19(東京三田ガーデンタワー28階)
電話番号 : 03-6435-1834 F A X 番号 : 03-3452-6768
緊急連絡先電話番号 : 079-322-4811 (タキロンテック(株) 技術部)

製 品 名 : タキロン溶接棒 ヨーセツボーPP #⁽¹⁾

(プラスチック溶接棒)

注(1): #は色相又は形状を表し、下記4～5桁の数字及びアルファベット付与の製品に適用する。

7031, 7032, 7033, 7091, 7092, 7093
P333S, P333W, P333T

2. 危険有害性の要約

GHS分類 : 分類基準に該当しない
GHSラベル要素 : 該当しない
最重要危険有害性 : 通常使用に際しては該当しないが、燃焼した場合の煙・ガスを多量に吸入すると粘膜(目, 鼻, 喉)を刺激し頭痛, 身震い, 吐き気, 食欲不振を起こす恐れがある。
特定の危険有害性 : 可燃性。着火した場合、燃え続ける。
化学物質等の分類 : 人体に対する影響は知られていない。

3. 組成, 成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物
一 般 名 : ポリプロピレン(PP)製溶接棒
化学特性に関する情報 :

成分	含有量 (質量%)	構造式(主成分)	CAS No.	(化審法) 官報公示 整理番号
ポリプロピレン	99%以上	(C ₃ H ₆ . C ₂ H ₄) _x	9010-79-1	6-10
その他添加剤(着色剤など)	1%以下	—	—	—

危険有害成分 : 知見なし

4. 応急措置

吸入した場合：・棒状の固体で、該当せず。

ただし、熱加工あるいは切断加工時に発生するガスを大量に吸入したときは、新鮮な空気のある場所へ移動すること。

喉、呼吸困難やその他の症状がでたときは、医師の手当てを受けること。

皮膚に付着した場合：

- ・人体への特別な影響はありませんが、必要に応じて触れた箇所を石鹼または皮膚用洗剤を使用しよく洗浄する。

目に入った場合：棒の先端で突いたときは、直ちに医師の手当てを受けること。

飲み込んだ場合：棒状の固体で、該当せず。

5. 火災時の措置

消 火 剤 ： 水、ABC 粉末消火剤、炭酸ガスを使用する。

特定の消火方法：・指定の消火剤を使用する。

- ・可燃性の物を周囲から素早く取り除く。
 - ・熱分解、不完全燃焼により黒煙、一酸化炭素ガスなどが発生し、これらの吸入による危険が生じたりする可能性があるため、必要に応じて適切な保護具(耐熱性着衣など)を着用する。
 - ・消火活動は、風上から行なう。
-

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項：棒状の固体で、該当せず。

環境に対する注意事項：棒状の固体で、該当せず。

除 去 方 法 ： 棒状の固体で、該当せず。

7. 取扱い及び保管上の注意

取 扱 い

技術的対策： 高温で変形を生じ、常温でも経時的にクリープ変形する。

注意事項： みだりに火気を近づけない。

安全取扱い注意事項： 細長い棒なので、先端で眼を突かないように注意して取扱い、使用すること。

保 管

技術的対策： 3,000 kg 以上保管する場合、消防法の指定可燃物に該当しますので、保管などにあたっては、各市町村条例にしたがってください。

混触禁止物質： 知見なし

保 管 条 件： ・直射日光・高温・高湿・紫外線の強い照射を避け、変質等を防ぐため、屋内で保管してください。

- ・横積み、下積みを避けてください。

容器包装材料： ダンボール紙

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策： 溶接作業によって分解ガスが発生しますので、局所排気装置などを使用し、また近くに手洗い、洗眼などの設備を設けるようにすること。

管理濃度： 設定されていない。

許容濃度： 樹脂の粉末についての許容は定められていないが、下記の値を準用するのが、適当と考えられる。[引用参考文献；3]

項目	許容濃度	
	時間荷重平均値 吸入性粉塵	総粉塵
日本産業衛生学会勧告値(1992年)第3種粉塵 (その他の無機及び有機粉塵)	2 mg/m ³	8 mg/m ³
ACGIH勧告値(1992年)一般粉塵 (Nuisance Dust)	—	10 mg/m ³

保護具： 呼吸器の保護；作業条件によって、保護マスクを着用する。

手の保護；作業条件によって、保護手袋を着用する。

目の保護；作業条件によって、保護眼鏡を着用する。

皮膚及び身体の保護；作業条件によって、作業着、安全靴を使用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観 (容器)： 棒状 (ポリ袋入り、ダンボール紙包装)

(物理的状態・色・臭い)：(固体・乳白色(ナチュラル),ダークグレー色又はアイボリー色
・臭いなし)

[7031～3；乳白色，7091～3；ダークグレー色，
P333S, P333W, P333T；アイボリー色]

物理的状態が変化する特定の温度／温度範囲

融点：150～170℃

融点/凝固点：該当しない

沸点又は初流留点及び沸騰範囲：該当しない

可燃性：可燃性固体

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界：該当しない

(粉塵は爆発性混合気を生成する場合がある)

引火点：知見なし

自然発火点：440℃

分解温度：知見なし

pH：該当しない

動粘性率：該当しない

溶解度：水に不溶

n-オクタール/水分配系数：該当しない

蒸気圧：該当しない

密度及び/又は相対密度：0.90g/cm³～0.92g/cm³

相対ガス密度：該当しない

粒子特性：該当しない

1 0. 安定性及び反応性

反応性	: 通常の状態では安定
化学的安定性	: 紫外線・熱によって劣化する。一般的な貯蔵、取り扱いにおいては安定で反応性はない
危険有害反応可能性	: 燃焼、高温（300℃以上）条件下での成形加工時に分解物が発生する恐れがある。
避けるべき条件	: 火気厳禁：火源との接触を避けること。 高温、高湿雰囲気下での保管を避けること。
混触危険物質	: 常温では安定である
危険有害な分解生生物	: 熱分解、不完全燃焼により黒煙、CO CO2などが発生する。

1 1. 有害性情報

急性毒性	: 知見なし
皮膚腐食性/刺激性	: 知見なし
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 知見なし
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: 知見なし
生殖細胞変異原性	: 知見なし
発がん性	: 知見なし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 知見なし
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 知見なし
誤えん有害性	: 知見なし

1 2. 環境影響情報

・ 残留性, 分解性, 生体蓄積性については、特に知見がない。

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物：「廃棄物の処理および清掃に関する法律」施行令 第6条に準拠し、150mm角以下に破砕して埋め立てるか、燃焼温度 800℃以上で焼却し、煤塵を 280℃以下の低温で除去できる燃焼炉で処理する。
その他、取り扱いおよび保管上の注意の項記載注意事項を遵守する。

汚染容器・包装：包装のダンボールは、ダンボール(紙)類として廃棄する。

1 4. 輸送上の注意

輸送に関する国際規制によるコード及び分類に関する情報：知見なし

輸送の特定の安全対策及び条件：

- 共通； 取扱いおよび保管上の注意の記載事項に従う。
- 陸上輸送； 各輸送に定められている輸送方法に従うこと。
- 海上輸送； 船舶安全法に定めるところに従うこと。
- 航空輸送； 航空安全法に定めるところに従うこと。

1 5. 適用法令

消 防 法	: 第9条の3危険物の規則に関する政令第一条の12 別表第4 指定可燃物 合成樹脂類に該当
労働安全衛生法	: 対象物質は含んでおりません。
毒物・劇物取締法	: 対象物質は含んでおりません。
船舶安全法	: 対象物質は含んでおりません。
航 空 法	: 対象物質は含んでおりません。
P R T R 法	: 対象外（第一種及び第二種指定化学物質は、添加しておりません。）

16. その他の情報

注 意 :

- (1)本データシートは、化学製品の工業的な一般的取り扱いについての最新の情報を集めたものですが、危険、有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取扱いには、十分注意して下さい。
- (2)上記情報は、現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、新しい知見により訂正されることがあります。
- (3)注意事項は通常の取り扱いを対象としたものですので、本製品に他の化学物質を混合したり、特殊な取り扱いの場合には、用途、用法に適した安全対策、評価を実施検討の上、ご利用下さい。
- (4)本データシートに掲載した数値は、保証値ではありません。